

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3597100035		
法人名	株式会社 ひまわりあくと		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-27		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成 25年 12月 16日

利用者本人が自分のペースで気ままに暮らしていけるよう、今までのライフスタイル、本人の気質に合わせて柔軟に側面的に対応しています。家庭の雰囲気の中で本人の尊厳、自己決定を念頭に入れて支援しています。管理者にはデスクワークの日を設け、病院受診や事務処理、利用者のお出かけイベントに対応し、現場の業務と余裕を持ってこなせるよう配慮しています。主治医や看護師による往診や健康チェックを定期的に行い、医療の補填をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の栄養士が利用者の好みを取り入れた献立をつくれ、旬の新鮮な食材を使用されて、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者と職員は同じテーブルを囲まれて、同じものを食べておられ、職員は、利用者が話しやすい話題で話がはずむように言葉かけをされ、利用者が楽しく食事ができるように支援しておられます。誕生日には本人が好きなものをつくられたり、お弁当をつくって戸外で食べられたり、年6回の外食やファミリーレストランでアイスクリームやケーキを食べておやつタイムを過ごされるなど「食」を通じた様々な工夫をされ、利用者にとって食することが楽しみになるように取り組まれています。テレビを視聴されたり、新聞購読、読書、日記をつけたり、季節の作品づくりをされる他、生け花、ぬり絵、折り紙、カラオケ、ゲーム、体操、外出、居室の掃除、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえや後片づけなど、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくれ、利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるように支援しておられます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共有できるよう、ミーティングで話し合い、共通認識として地域と共に歩んでいけるよう取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、地域密着型サービスとしての意義を共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩やお出かけドライブ、またボランティアの受け入れをしながら交流を図っている。	自治会に加入し、草取り作業などに参加している。日常的に近所を散歩し、出会った地域の人と挨拶を交わしたり、会話をしている他、近くのお店やスーパーに買い物に出かけ、顔馴染みの人と交流している。小学校の運動会の見学や、日本舞踊や歌、楽器演奏などのボランティアの来訪がある他、近所の子どもが来たり、中学生が見学のために来訪しているなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の窓口でもある自治会長、民生委員、地域代表の方に運営推進会議に参加していただき、資料で活動内容を広く知っていたけるよう勤めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義や存在を自己評価や外部評価を通じてミーティング等で改めて理解を深めている。	評価の意義について理解したうえで、ミーティングの中で管理者が項目について職員の意見を聞き取りまとめている。前回の外部評価結果について、目標達成計画を立て、取り組むように努めているが、評価を活かすまでには至っていない。	・評価を活かした取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて参加された地域住民、家族の方に日常生活、サービス状況について報告し、意見を聴きながら今後のサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、状況報告、活動報告、事故報告、インフルエンザ対策、火災対策など、事業所の取り組みについて報告し、意見交換をしている。会議の意義についての理解やメンバーの積極的な意見交換がなく、意見を活かすまでには至っていない。	・地域メンバーの拡大 ・会議の意義の理解と活かし方の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加されているので相談したり助言をいただいている。	町の担当者には、運営推進会議時や電話、直接出向いて相談し、助言を得たり情報交換をするなど協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中に外へ散歩に出かけたりベンチに座っての談話をしたりするときに玄関の施錠を開放している。	職員は身体拘束について理解し、拘束をしないケアの実践に努めている、安全のために玄関の施錠はしているが、日中はできるだけ、外出や外のベンチでくつろげる機会を増やしている。外出をしたい利用者には職員と一緒に外へ出て支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで虐待防止についての話し合いをしている。職員間で情報交換する機会を設けてルーチンワークによる対人業務の麻痺に繋がらないよう気をつけている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明、個人情報に関する事項、重度化に関する指針について十分な説明をし、納得の上同意をいただけるよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談に関する意見箱を用意している。運営推進会議にて報告、ミーティングにて職員への周知、話し合いの機会が設けられるようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時に家族から意見や要望を聞き反映させるように努めている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているミーティングにて職員の意見の聴取をし、ボトムアップに繋げられるようにしている。	毎月のミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。行事企画書で提案があり、それらを反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の意見、要望を聴いていき勤務の調整を柔軟にしている。研修や資格の取得のための勤務調整の要望があれば沿えられるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部機関が設けている研修や講演会など職員が興味あることを伸ばせていけるよう機会の確保に努めている。	外部研修は職員に研修の情報を提供しているが、参加していない。内部研修としては実施せず、管理者が日常の業務の中で助言、指導している。	・職員が研修を受ける機会の確保 ・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りの手段としてグループホーム連絡協議会などの参加も視野にしていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は本人も混乱していることが予想されるのでアウトリーチによって本人が気楽に関われるよう本人の意見が聴きだせるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていること、サービスの内容を十分に説明していき、信頼関係を徐々に構築できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入に当たって、その時や今後について本人の状態によって様々な選択肢があることを説明していつている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体で日常生活が送れるよう関わりに配慮し、他の利用者さんを含めて安心して共同生活をしていくためにレクリエーションや共同作業を通して関係が深めれるよう援助している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人ひとりも家族との信頼関係を徐々に築いていき連帯で本人を支えていけるよう連絡を取り合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームを利用する以前の馴染みの所有物を居室に置いていけるよう家族にお願いしたり、美容院など地元の方と地元ならではの談話ができるよう配慮している。	知人や友人、親族の人などの来訪がある他、自宅へのドライブや馴染みの美容院の利用、行きつけの店での買い物などの支援をしている。家族の協力を得て、外食や外泊、買い物などの支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小舎制なグループホームの特質を活かしつつ、本人の個性が出せていけるよう周囲との調整をしていながら利用者同士が関わり合えるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などでサービス関係が途切れた場合であっても面会や電話などをしていき相談に乗ったり助言ができることがあれば助言をしていっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話していく中で本人の意向を引き出せるよう関係を作っている。	日々、利用者に関わる中で、利用者の話を聞き、ミーティングで話し合い思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に当たっての面談時に情報と連続性の確保のために家族から収集している。本人からも話しの中から傾聴している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のペースで過ごしてもらい、できるところは自分の力でしてもらい、本人のパーソナリティの把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人が生き生きと過ごせるよう、関係者がそれぞれ意見を出し合い、共通認識の上介護計画を練っている。状態が変化した時にはそれに応じて練り直している。	利用者の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして、サービス担当者会議で計画作成担当者を中心にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回、モニタリングして評価し、見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度話しあって見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした会話の中に本人の思いが宿っていることもあるので逐語録として残し、職員間で共有、検討をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人の定期的な連れ出しや宿泊、近医への受診、個人個人に必要なサービスに対応できるよう多機能的に柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が懐かしい、行きたいと思うところへドライブに出かけたり、ボランティアの受け入れなどでポテンシャルを引き出している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、家族の都合により付き添いできない場合には通院介助等、個別に医療機関を選択し受診している。緊急時には対応してもらえる関係を築いている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回往診がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。看護職を確保して利用者の健康管理をしている他、緊急時は協力医療機関が対応しているなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が利用者個人個人の健康状態について把握できるように利用者本人と接している。その際に日常生活の様子を介護職から看護師に伝えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合には要約書を送り情報の提供を行っている。良好な関係を築けるよう利用者の状態によって逐一情報を交換している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化に対するホームとしての指針を家人に丁寧に説明し、納得の上関係者全体で経過について協力できるように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた事業所の方針について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には医師に相談し、家族と話し合い、職員間で共通理解をして方針を決めて移設も含めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデントアクシデントレポートに記録を残し、急変や事故時の看護師による初動に関する指導や説明を受けている。	インシデント、アクシデント報告書にその場にいる職員が対応策を話し合って記録し、ミーティングで検討して一人ひとりの事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。運営推進会議にて民生委員や自治会長の方に避難に関する指導を仰ぎ、地域住民の方にも協力をもらえるよう伝えている。	夜間想定火災時避難訓練を年2回実施している。運営推進会議で地域との協力について働きかけをしているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のパーソナリティを重んじ、その人なりの生活を送っている中でタイミングや場面に気を使いながら声かけをしている。尊厳ある存在として接し方に気をつけている。	利用者は経験や知恵のある人生の大先輩として、敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録等は保管し、取扱いに気を付けている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いの表出に心がけており、その思いを汲んでいけるようにしている。日常生活の中で選択の場があれば沿えるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムのペースに合わせていき、側面的な援助ができるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師によるカットの機会を設けており、その時に自分の好みのカットを言っている。また、各居室の洗面器に全身サイズの鏡を施設しており各々美容の調整をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階から後片付けまで家事の手伝いをする方もいる。適温で提供できるよう調整し、職員と共に食している。	利用者の好みを取り入れた法人の栄養士による献立で、旬の新鮮な食材を使用して三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、野菜の下ごしらえ、皮むき、味見、テーブル拭き、お盆拭き、下膳など、できる事を職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲み同じものを食べながら、会話をしている。誕生日には本人の好きなものを作って食べてもらうほか、お弁当をつくって戸外で食べたり、年6回は外食に出かけたり、ファミリーレストランでアイスクリームやケーキを食べておやつタイムを過ごすなど食することが楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算は栄養士が行っており、水分補給は食事時、コーヒータイム時、おやつ時、入浴後等一定感覚で摂っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に緑茶に寄るうがいをしている。就寝前の義歯洗浄、消毒を毎日施行しており、自分でできる方は自分でしてもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康記録に排泄の時分を記録して個人のパターンを把握し、緩下剤を服用している方は服薬を調整している。	排泄管理表で排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の蠕動運動を促すためにも体操や行進運動を取り入れている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望によって毎日入れるようになっている。	入浴は10時から11時30分までと、13時30分から15時まで毎日可能で、希望や体調に合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。柚子湯やバラの花びらを入れた湯などで季節感を出したり、会話や歌などでくつろいだ気分になれるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室とホール、様々な場所を行き来し好きなことをして過ごしている。夜間もホールのテレビを点けておき、自由に観賞したり談話したりしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書によって名前、効能、効果を把握できるような体制にしている。薬を確認できる機会を日勤帯と配薬時に設けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションによる興味の嗜好を探れるようにしている。本人ができること、長けていることを活かせるような企画を考えている。	テレビ視聴(ニュース、時代劇、スポーツ)ビデオ視聴(歌番組)、新聞購読、読書、日記をつける、季節の作品づくり、カレンダーの目めくり、生け花、ぬり絵、折り紙、カラオケ、合唱、カルタ、百人一首、しりとり、風船バレー、輪投げ、ボーリング、ことわざ遊び、棒体操、テレビ体操、居室の掃除、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、外出など楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の一言一言に耳を傾けて、本人の要望に沿えるように思案し、ご家族と相談しながらドライブ等出かける機会を作っている。	近所の散歩や買い物、季節ごとの花見、自宅までのドライブ、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人に金銭管理能力を持ち合わせている方が少なく、ご家族の希望もありホームでの管理としている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話、手紙のやり取りができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に共同で創作した季節感ある貼り絵やカレンダー、イベント時や日常生活の写真等を飾ったり、民謡のBGMを流したり、また調理場からの食事の匂いで雰囲気や、感度を考えるよう配慮している。	共有空間は明るく、温度や湿度、換気、音など配慮している。壁面には、季節感のある利用者の作品や風景写真、行事の写真などが飾ってある。窓の下にある畳敷のベンチスペースで外の景色を眺めたり、腰を掛けておしゃべりをしたり、洗濯物をたたんだりできる。テレビの前にソファを配置し、利用者がテレビをみながらくつろげるようにしている。キッチンから調理の音や匂いがして、生活感があるなど利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別性を考え、利用者本人が自由に席を移動したり、一人になれる空間を作ったりと意図的に関与している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅との連続性を保つために、使い慣れた置き物や昔の写真、居室空間のインテリアを設置している。	ダンス、テレビ、衣装ケース、洋服掛け、時計、アルバムなど使い慣れた物や好みのものを持ち込み、家族の写真を飾ったり、ぬいぐるみを置いたり、安心して暮らせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内になるべく手を伸ばせば支えになるよう手すりや家具を配置している。浴室には浴室、便所には便所と視覚的に確認できるようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこすもす

作成日： 平成 26年 4月 12 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	地域密着型サービス、自己評価、外部評価の意義を表面的な枠組みとして捉えるのではなく、根底にある意義を考えて話し合い、実行していく必要がある。	外部評価に対する意義を改めて掘り下げて考える機会を作り、評価を活かした取り組みができるようにしていく。	今回の自己評価及び外部評価結果を全職員に配り、ミーティング等では何かの議題にて逐一外部評価の内容にリンクしそうなところは挙げて行き実践にいかせられるようにしていく。	
2	4	家族の方の出席も一定の家族の方の出席がほとんどであり、会議での話し合いも広く受け止められていない様子である。	定期的には各家族の方が出席できるような意識作りをしていき、意欲を持ってもらいたい。そのためにも会議での内容も画一的にならないように充実させていく必要がある。	定期便の通達にはもちろん面会時にも十分な説明をしていき開催していることを再度周知してもらう。また、開催意義についての意見があれば伺っていく。	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。